

2012 年度第1回評価・標準化研究会議事要旨

日時：平成24年6月14日(木)15:00-18:00

場所：株式会社 NTT データ 豊洲センタービル 会議室

出席者：飯倉・岩崎・小林・沖・杉田・高村・田殿・田村・筒井・渡辺

議事

1. 会長挨拶および近況報告

飯倉会長から研究会の趣旨等の挨拶があり、各研究会員から近況の報告が行なわれた。

2. 昨年度の研究会状況の共有

平成23年度の研究会状況を共有し、研究会活動として、衛星データの物理量変換を主要課題として検討し、特に輝度補正をタイムリーに行なうための地上リファレンスデータ観測網に関して検討を進めることを確認した。

3. 研究会の会員名簿及び ML の更新

平成24年5月末までに更新登録した研究会会員が承認され、会員名簿ならびにメーリングリストの更新が承認された。

4. 講演：SKYNETにおける雲・エアロゾル観測 高村 民雄(千葉大学CEReS)

雲及びエアロゾルの光学的パラメータ観測を研究コミュニティで行っている「SKYNET 観測ネットワーク」について後援があった。「SKYNET」は、エアロゾルを主とした光学的パラメータ観測により、①地球温暖化に関連する放射収支に与える雲及びエアロゾルの影響評価、②雲及びエアロゾルを推定する衛星プロダクトの評価を目的としている。講演の中では、アジア・ヨーロッパに配置された「SKYNET」のセンサ機器、観測手法、運用・メンテナンス方法の説明があり、計測対象パラメータの「光学的厚さ(AOT)・単一散乱アルベド(SSA)」の観測結果について解説があった。計測手法によるパラメータの推定方法や観測結果の違い、また、観測結果を用いた大気数値計算モデルの解析結果等の解説を通じて、講師と参加者で活発な質疑、議論が交わされた。

5. 衛星データの評価・標準化の国内および海外の動向 飯倉善和(弘前大学)

衛星データの標準化に関連する国内の動きとして、宇宙開発戦略本部が検討している衛星利用促進プラットフォームに関するRSSJ学会の制度設計WGの活動が紹介された。また、海外の動きとしてISO技術標準(リモートセンシングセンサの校正と検証)に関して説明があった。

6. 今後の研究会について

本研究会を通じて大気補正(衛星データの物理量変換)について、地上センサで観測する機器と手法ならびに運用方法の技術を共有した。今後の進め方についてメンバーからは下記のような意見があった。

- ・ 衛星データの利用促進をすることを考えると、衛星データの Radiometric の精度の評価方法が課題である。ここまでの精度で補正できるという結果を示す必要がある。
- ・ 現状の観測システム、計算モデル等を踏まえると、そのまま高分解能衛星画像に適用するのは難しいのではないかと。解決できる部分を見極める必要がある。
- ・ 衛星プロダクトを検証する目的で地上センサを利用することが良いのではないかと。
- ・ 物理量での利用を促進するためには、反射率プロダクトを作成する必要がある。

今後の研究会活動として、衛星データの物理量変換を引き続きに主要課題として検討を進めていく。特に、地上観測センサシステム、大気計算モデルおよびそれらを用いた衛星データの輝度補正について検討を進めることとした。

以上